

公益社団法人都市住宅学会大会（仙台） —第21回学術講演会—開催について

公益社団法人都市住宅学会 大会実行委員会
委員長 石坂公一

標記学術講演会を下記要領にて開催いたします。多数のご参加をいただきますよう、お願い申し上げます。

記

- 日時：2013年11月29日（金） 13：00～17：00 見学会
11月30日（土） 会場：東北大学片平キャンパス さくらホール・エクステンション教育棟
14：30～15：30 開会式、表彰式
15：45～18：00 メインシンポジウム（公開市民フォーラム）
18：30～20：30 懇親会（東北大学 レストラン萩）
12月1日（日） 会場：東北大学片平キャンパス エクステンション教育棟
09：00～11：40 研究発表会
12：45～17：00 ワークショップ
- 会場：東北大学片平キャンパス 所在地：〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1
交通：JR 仙台駅から徒歩で15分程度
仙台駅前のりばからバス 東北大正門前下車（霊屋橋・動物公園経由 緑ヶ丘三丁目行、霊屋橋・動物公園・西の平経由 長町南駅・長町（営）行ほか）
（約10分、180円）
- 内容：（1）研究発表12題
（2）メインシンポジウム テーマ：「東日本大震災復興住政策の課題と提言」
（3）ワークショップ
①「住宅地の液状化現象への対処と地価および家賃への影響」
②「住まいとケアの連携－ケアをどこまで提供すべきか－」
③「東日本大震災の災害公営住宅計画の課題を検証する－岩手・宮城・福島を中心に－」
④「高齢化社会の地域・都市－医療・ケア提供のサステナビリティ－」
（4）見学会
- 参加費：研究発表会、シンポジウム、ワークショップ、博士論文コンテスト：無料
見学会：2000円、懇親会：4000円
- 申込み：各プログラムへのご参加については、別紙のFAX送信票にて（公社）都市住宅学会事務局までお申し込みください。（11/17締切）※E-mailも可（アドレス：t-info@uhs.gr.jp）
締切日以降は、上記アドレスへE-mailにてご連絡いただきますようお願い申し上げます。
- プログラム概要（※詳細は65～69頁）

大会 プログラム

公益社団法人都市住宅学会（仙台）

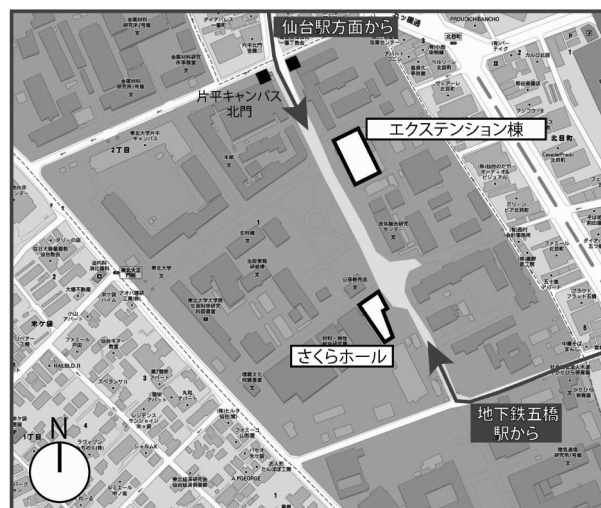
第21回学術講演会—開催について

公益社団法人都市住宅学会 大会実行委員会 委員長 石坂公一

■会場案内

東北大学（片平キャンパス）

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1



《交通》

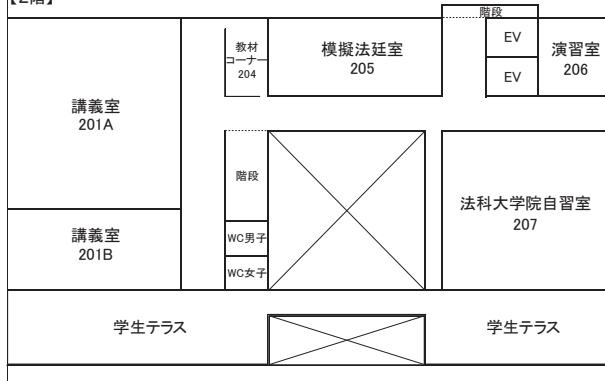
仙台空港から：仙台空港アクセス線 約25分、仙台駅下車。

JR 仙台駅から：徒歩で15～25分（約1.5km）、バスで5～10分（東北大学正門前）。

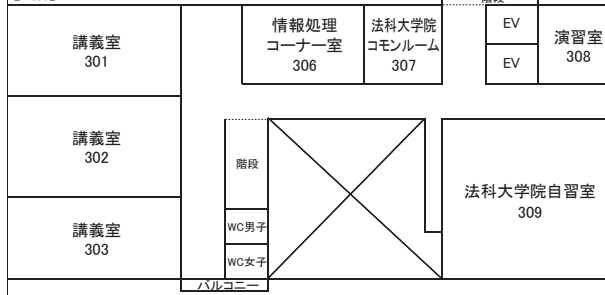
地下鉄五橋駅から：徒歩15分程度。

エクステンション教育研究棟平面図

【2階】



【3階】



201A 講義室：ワークショップ

201B 講義室：ワークショップ

301 講義室：研究発表会

302 講義室：研究発表会

■プログラム 第1日目 2013年11月29日(金) 見学会

○東日本大震災からの復興を目指して

仙台市周辺の仮設住宅、災害公営住宅の見学とあわせ、将来のコンパクトシティ化を見据えた移転事業など、復興事業の現状を見学予定。

●集合日時：2013年11月29日(金) 13:00

●集合場所：JR 仙台駅 西口付近

(詳細は参加者に別途ご案内)

●参加費：2,000円(バスチャーター代含む)

●参加人数：20名程度(先着順)

●申込締切 11月17日(日)：

別紙の申込書によりFAXまたはメールで学会事務局までお申し込みください。緊急時の連絡のため、携帯電話番号を必ず記入しておいてください。

●スケジュール：

13:00 仙台駅 発

↓

応急仮設住宅団地視察

↓

岩沼市玉浦西地区視察

防災集団移転事業により沿岸集落を既存市街地隣接に集約移転(地区内に災害公営住宅を整備)

↓

山元町新山下駅周辺地区視察

JR常磐線の移設にあわせ、津波復興拠点整備事業等により新駅周辺を整備(地区内に災害公営住宅を整備)

↓

17:30 仙台駅 着

■プログラム 第2日目 2013年11月30日(土) 開会式、表彰式、メインシンポジウム

○2013年度都市住宅学会大会開会式(14:30～) 会場：さくらホール

・実行委員長挨拶

○2013年度都市住宅学会表彰式(14:35～15:30) 会場：さくらホール

・学会賞(業績賞)表彰式

*さくらホールにて業績賞授賞プロジェクトのパネル展示を予定。(12月1日(日)はエクステンション教育棟内で展示)

○メインシンポジウム

●テーマ：「東日本大震災復興住政策の課題と提言」

日時：11月30日(土) 15:45～18:00

場所：東北大学 片平キャンパス さくらホール

(趣旨)

東日本大震災発生から2年半以上が経過した。住宅復興のプロセスでは、さまざまな課題が顕在化している。また、その解決のためには、当面の復興住政策の改善とともに、平時の住政策の改革も必要とされている。さらに、地震・津波被災者と原発事故被災者とは異なる住生活再建問題や両者の複雑な関係によって、住宅復興は一層困難なものとなっている。

今回のシンポジウムでは、こうした背景をふまえて、復興住政策の推進に向けた提言をとりまとめるために、学際的な議論を深めることを目的としている。

【コーディネータ】 高田光雄 (京都大学大学院工学研究科教授)

【パネリスト】 石坂公一 (東北大学災害科学国際研究所教授)

島田明夫 (東北大学大学院法学研究科教授)

定行まり子 (日本女子大学家政学部教授)

川崎直宏 (株式会社市浦ハウジング&プランニング)

中川雅之 (日本大学経済学部教授)

○研究発表会 (9:00～)

[A00: 審査付論文(論文集掲載) B00: 一般論文 C00: 報告(梗概集掲載)]

セッションA (301教室)「住宅市場」(3題)

司会: 中川雅之(日本大学経済学部教授)

発表(15分)・質疑(5分)

時間	No.	○発表者・タイトル
09:00	A02	○藤澤美恵子 住宅エコポイントの断熱性能向上効果と経済波及効果
09:20	B01	○式王美子 住宅アフォーダビリティの近年の動向に関する研究: 全国消費実態調査マイクロデータによる住居費負担分析の中間報告
09:40	B03	○絹川麻理 入居率と環境差異からみたサービス付き高齢者向け住宅の環境整備状況と選択に関わる課題

セッションB (301教室)「住まい方」(3題)

司会: 鈴木雅之(千葉大学工学部助教)

発表(15分)・質疑(5分)

時間	No.	○発表者・タイトル
10:20	A01	○古賀繭子 都営戸山ハイツにおける高齢者の住まい方からみた継続居住に関する研究
10:40	A04	○川岸梅和 アメリカにおけるエコビレッジ型コウハウジングに関する研究—地域区分による特性—
11:00	B04	○宮野順子 開放的な間仕切り建具により一体空間となる住宅の提案とその検証 —世帯属性毎にみる開閉状況と室の使い方の分析を通して—

セッションC (302教室)「災害と住まい」(3題)

司会: 森 傑(北海道大学工学研究院教授)

発表(15分)・質疑(5分)

時間	No.	○発表者・タイトル
09:00	A03	○米野史健 岩手県の借り上げ仮設住宅における契約物件及び入居世帯の実態—東日本大震災後の借り上げに係る賃貸借契約書の記載情報の分析
09:20	A06	○乾 康代 東日本大震災と原発事故による茨城県の避難者の帰郷意思と支援課題
09:40	C01	○江川紀美子 東日本大震災時の高層住宅居住者の行動からみた防災対策について

セッションD (302教室)「団地再生」(3題)

司会: 浅見泰司(東京大学大学院工学系研究科教授)

発表(15分)・質疑(5分)

時間	No.	○発表者・タイトル
10:20	A05	○岡井有佳 フランスの住宅団地地区の再生におけるアソシエーションの意義と役割に関する研究—アンジェ市グラン・ビジョン地区を事例として—
10:40	A07	○前田昌弘 市街地型住宅団地再生におけるまちづくり会社の導入に関する研究 —堀川団地を対象として—
11:00	B02	○今西一男 地方都市郊外住宅団地再生に向けた住民の参加意識と住宅事情 —福島市蓬萊団地を事例に—

○ワークショップ①

会場：東北大学 片平キャンパス エクステンション教育研究棟
201A 教室 12:45～14:45

企画：総務企画委員会「住宅地の液状化現象への対処と地価および家賃への影響」

主旨

東日本大震災を経験し、広く認知されるようになった、「液状化現象」は主に砂丘地帯や三角州、港湾地域の埋め立て地などで発生するが、都市化の進展とともに住宅地での被害が多くみられるようになってきた。

この問題は、すでに被害が発生した地区のみならず、潜在的な被害想定地区における対策費用の発生や、地価や家賃の低下を通じて、経済的な被害を広く与えるという特徴を持っている。また、この現象に伴う影響は、別の場所での地震発生によっても、また、直接被害はなくても隣接の地区で地価や家賃の低下がみられるなど、被害の時間および空間的な発生メカニズムが複雑であることが、問題の把握や適切な対策を講じるにあたって、困難を引き起こしている。

本ワークショップでは、工学的、経済的、制度的な観点からのディスカッションを通じて、問題および対策の明確化を目指すことを目標にしたいと思う。

【パネリスト】

中川雅之（日本大学経済学部教授）

「液状化現象の地価および家賃への影響」

宗 健（株式会社リクルート住まいカンパニー住まい研究所所長）

「広告掲載データから見た不動産賃料・価格推移への液状化被害の影響」

齊藤広子（明海大学不動産学部教授）

「液状化による住宅・生活・身体への影響」

直井道生（慶應義塾大学経済学部准教授）

「家計パネルデータからみた液状化リスクの認知と家計行動」

【コーディネータ】

太田 充（筑波大学システム情報系准教授）

○ワークショップ②

会場：東北大学 片平キャンパス エクステンション教育研究棟
201B 教室 12:45～14:45

企画：関西支部「住まいとケアの連携—ケアをどこまで提供すべきか—」

主旨

高齢者介護では住み慣れた地域での居住継続が目指されている。在宅サービスでは、住まいとケアを分離し、外部からケアを届けることで利用者の自立やサービスの効率化を目指している。介護サービスの面では、小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護など包括報酬の仕組みが制度化され、住まいの面ではサービス付き高齢者向け住宅など施設ではない居住のあり方が模索されている。また、住民組織による見守り活動など制度化されていない活動も活性化してきている。在宅サービスにおいては質の高いサービスを提供できる環境が整いつつあるが、いずれも人材、財源に限りがあり、「どこまでケアを提供すべきか」という線引きが必要となる。これまで高齢者介護はマイナス面を払拭し、あたり前の生活を普通に行えることを目指してきたが、これからは地域に適した介護のあり方を地域の人々が考えていく時代に入っている。今回のワークショップでは国内外の事例について詳しいパネリストをお呼びし、これらの問題について議論を深めていく。

【パネリスト】

石井 敏（東北工業大学教授）

井上博文（シンフォニーケア株式会社常務取締役）

佐藤由美（大阪市立大学特任講師）

【コーディネータ】

田端和彦（兵庫大学教授）

【司会】

三浦 研（大阪市立大学大学院教授）

○ワークショップ③

会場：東北大学 片平キャンパス エクステンション教育研究棟
201A 教室 15:00～17:00

企画：東北支部「東日本大震災の災害公営住宅計画の課題を検証する―岩手・宮城・福島を中心に―」

主旨

東日本大震災にともなう災害公営住宅の供給計画がいままさに進められている。現時点で岩手、宮城、福島等で約2万5千戸が計画されているが、平成24年度末の完成戸数はわずかに342戸、整備計画戸数の1.3%に留まっている。また、完成した災害公営住宅においては、入居率が83.3%に留まるなど、仮設住宅等からの移行がスムーズにいったいない状況もみられ、供給調整が大きな課題となっている。加えて、社会全体の高齢化、人口減少をふまえた計画のあり方が問われている。

本ワークショップでは、岩手・宮城・福島を中心とした災害公営住宅の供給計画の現状を概観するとともに、都市再生機構の取り組みを通して、地域性、被災者のニーズ、福祉との連携等をふまえた、まちづくり（居住環境）としての災害公営住宅計画のあり方を討論し、マクロ・ミクロ、ハード・ソフトの両面から現状の災害公営住宅計画における課題と展望をあぶり出したいと考えている。

【パネリスト】

板垣勝彦（横浜国立大学准教授）
「福島の災害公営住宅計画の現状と課題」
米野史健（建築研究所）
「岩手・宮城の災害公営住宅計画の現状と課題」
永井正毅（都市再生機構）
「災害公営住宅計画におけるURの取り組み」

ほか

【コメンテーター】

島田明夫（東北大学）

【まとめ】

石坂公一（東北大学）

【趣旨説明・進行役】

新井信幸（東北工業大学）

○ワークショップ④

会場：東北大学 片平キャンパス エクステンション教育研究棟
201B 教室 15:00～17:00

企画：関東支部「高齢化社会の地域・都市－医療・ケア提供のサステナビリティ－」

主旨

今後本格化する超少子高齢化を前に、地域包括ケア、サービス付高齢者住宅など様々な取組が行われつつある。高齢者への医療サービス、ケア提供について、住宅と施設の間でどのような役割分担を行うことが重要かという点について、実務家、アカデミズムを通じた議論が深められることが重要であるが、より広い視点に立った議論、つまり超高齢化社会の医療サービス、ケア提供を行う都市・地域の在り方についても議論を行うことが重要であろう。また、新しい視点として少子高齢社会の子育て環境も、地域のあり方として検討する必要がある。医療・介護保険財政が厳しくなっていく中、また地方財政が悪化していく中で、人口の移動も含めて、いかなるシステムが維持可能な医療・ケア提供を実現するかを、関西支部開催WS「住まいとケアの連携－ケアをどこまで提供すべきか－」に引き続いて議論する。

【パネリスト】

天河宏文（国土交通省まちづくり推進課長）
三浦 研（大阪市立大学大学院教授）
入澤敦子（旭化成ホームズ株式会社）
廣瀬雄一（東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員）

【司会】

中川雅之（日本大学経済学部教授）